

平成26年度 常滑市地区まちづくり講座 アンケート「まとめに向けて」 集計結果

項目	要因キーワード	方策キーワード	地区の理想の姿にならない要因は何だと思いますか？	左記要因に対する方策アイデアをご記入ください。
意識化・学習	関心がない	地域を知る	・住民が、住んでいる地区に無関心な人が多い(困っていないと思っている)。 ・地域活動に参加する人がいない。	・自分の住んでいる地域の特性を知ること。 ・地域の実態を知ること。
	住民情報不足	地域を知る	地域の人々の健康状態や環境について知識が乏しい。	地域をよく観察し、人々のようすを確認し、地域の活動にいかす。
	行政の地区現状把握不足	現状把握	行政は各地区の組織等を把握していないのでは？	地区には、区長のほかにもいろいろ役職があり、地区ごとに異なっていると思われる。また、一斉清掃等の方法、地区負担金、地域のつながりになるグループ等(コミュニティ、高齢者サロン等)も、地区ごとに異なっている。一度、現状を一覧にして、現状把握が必要では。
	行政依存	意識啓発	行政がやってくれるという気持ちを市民が持ち、行政がやらないと不満	職員はサポートする立場で、呼びかけ、市民意識を啓発
	関心がない	フェイスブック	地域に関心のある住民が少ない	市のFacebookを見てもらえるような仕かけ作り
	話し合いの場不足	フェイスブック	気軽に住民が声を上げられるような場がない	市のFacebookを住民(若い層)に推奨
	地区の情報不足	広報	地区の現状を知らない。	地区まちづくり通信(各地区の情報を伝える)
	先を見ていない	情報開示	5年、10年のスパン(次世代)で考えた時の財政、税金、人口減、(一人一人の負担)等を考えない。今自分がよければよい、なんとかなる気質(自然に厳しくない地域も一因	事実情報開示(言いにくい事もある)。ないものはない、あるものはある、厳しいことは厳しい、ごまかさず伝える。
	活動PR不足	ユニホーム	活動をもっとPRする必要がある	揃いのユニホームにするなど活動している姿が人の目につくようにする
	参加しにくい	表彰	地域活動の魅力不足及び参加しにくさ	地域活動を表彰する。称えることをする。
交流・夢を語り合う	若者が参加しない	サロン	若い人が参加しない	サロンのような参加しやすい環境づくり
	話し合いの場不足	サロン	気軽に住民が声を上げられるような場がない	気軽に参加できるようなサロンの開催及び周知
	参加しにくい	サロン	地域活動の魅力不足及び参加しにくさ	参加しやすさ及び魅力を高めるためサロンの活動にする。
	活躍の場が不足	地域団体を新設 サロン	愛着や誇りは既にあるが、それに加えて、一人ひとりの長所を活かせる新しい活動が生まれる場が求められているのではなか。	・地区に「〇〇の会」を増やしたり、定期的にサロンを開く。それにより、役員以外でも気軽に地域に参加できるようにする。(顔を合わせることで気運を高める)
	目標が高すぎる	地区の理想を話し合う	地区の理想の姿の目標設定が高すぎるかもしれない	地区の理想について、ワークショップ(グループでの話し合い)などを開催して話し合う
	現状認識不足	ワークショップ	地区の理想の姿と現状の違いを確認できていない	ワークショップ(グループでの話し合い)などを開催して話し合う
	目標認識不足	若い世代の話し合い	地区の理想の姿を目指すことが住民間で統一されていない	地区の若い世代(20～40代)も参加できる話し合いの場を提供する。
	世代間交流の不足	交流行事	多世代間の出会いの機会が少なく地域コミュニティが活性化しない。	市民が参加し、交流できる、活動できる場、行事を増やす。 例 ・公共施設の有効活用(空き教室) ・市制60周年事業のような多世代が一緒に参加できる行事を行う。
	地区・世代のズレ	交流行事	地区のギャップ、世代のギャップ	ゴミ拾い、散策等の交流を広げていく。
	参加行事の不足	交流行事	住民参加のイベントが少ない	イベントを少しずつ増やす
	世代間交流の不足	交流行事	地域の人々が集まる機会が少ない。地域の高齢化が進み、若い人がいない。	地域で行事(祭り、ソフトボール、歩け歩け大会等)を開催する。
	住民情報不足	交流行事	地域にどんな人が住んでいるのかがどんどんわからなくなっている	これもイベントで知り合う。
	新旧住民の意識の違い	交流行事	新しい住民と元々の住民の意識が異なる。	地区内で誰でも気軽に参加できるイベント(公会堂まつり、夕食会)を開催し、まずは交流を始める。
	つながりが希薄	交流行事	人と人のつながりが希薄(市民と市民、職員と市民)	交流する機会を設ける
	つながりが希薄	新市街地での交流行事	・地域での人間関係の希薄化 ・まちづくりに対する関心の低さ	・飛香台等、転入者が多い地区でつながりをつくる行事を企画する。(地区内の公園等の除草作業後の交流会等)
	関心が低い	地域独自イベント	もともと住んでいた人と新しく住み始めた人の地域への関心の度合や愛着あるなしの差が大きすぎる。	始めから住んでいた人たちと同じレベルで愛着をもってもらおうと思わずに、興味をもってもらえるよう話し合いの場、地域独自のイベントの開催をする。
	愛着・誇り不足	地域資源の活用	地区に対する愛着や誇りが少ない。	今年度認定された28地区の世間遺産を活かした地区まちづくりを行う。
	行事の魅力不足	行事の魅力向上	地域に愛着する行事がない(役員のための参加)	単なる行事に終わらせず行って良かったと思うことをする 例)元旦祭の時、甘酒をふるまう
	目標共有の欠如	スローガン	市民誰もが知っている、市民がめざす、市の理想がない	子どもから、大人、高齢者、みんなが目指すスローガンがあるといい。
	考え方が千差万別	スローガン	地区まちづくりの考え方が千差万別。	地区まちづくりのスローガンを掲げる。例)三感四思「感謝、感激、感動」「家族、地域住民、地域社会、自然環境への恩」
参加者が少ない	学校	・住民が、住んでいる地区に無関心な人が多い(困っていないと思っている)。 ・地域活動に参加する人がいない。	学校を巻き込んだイベントを行ってみる。	
メリット不足	子ども	住民が地域活動に参加しても、目に見えるメリットが少ない。その結果、参加率が良くない。	世代によって違うと思いますが、幼児から小学生の子どもがいる親であれば、子どもが参加してみたい講座をつくり、子どもが参加している最中に親は話し合うなど。(子どもにメリットがある)	
高齢者のみ参加	親子参加	定年退職後の方が地域行事に参加して、子供の代の方が地域行事に参加してくれない	親子そろって参加できるようにする	
組織化	役員依存	班単位	役員のみにかまかせている。自分には関係ないと思っている。	区単位でなく、班単位での話し合いの場を設け、地域で住んでいると自覚を
	時間がない 他の娯楽が多い	組単位	・自分の仕事・生活が忙しく、時間の余裕、そして心の余裕がないため ・地域のお祭り・盆踊り等参加しなくても、昔とちがい他に自分で楽しめる娯楽がある(子供会がなくなっているのもこの理由)	・本当にみんなが気になっていることは防災だと思っています。区ごとから組ごと、より現実味のある小さな単位で顔合わせができれば…。
	つながりが希薄	隣組・町内単位 交流行事	町内会では回覧板等でしか情報を得る機会がなく、隣同志でもあいさつ程度のつき合いしかしていない。	隣組・町内単位でのイベント。例えば運動会、ソフトボール大会等を実施し、その後バーベキュー等を開催してお互いの親睦を深めるように努める。
	つながりが希薄	町内単位、防災	近所づきあいが少ない。	町内毎に防災鍋パーティー(楽しい炊出しで絆づくり)「常鍋(とこなべ)」
	出番がない	みんなに役割を	自分(私、僕)の出番がない	会議に出席するのも出番ですが、ごみを拾う、ごみの分別を手伝う、挨拶をする等も出番であり役割だと思っています。 こどもには素晴らしい発想があり、若いひとは柔軟な発想が、年配の人には培った経験と知恵があります。一人一人の潜在能力をもってすれば、予測以上の展開が生まれると思います。(自分が社会の役に立つということがうれしい。いざ農家のおばあちゃんの言葉。) 全国にはピンチをチャンスに変えた市まちは多くあります(今まで話すことできない理由をだあーと言われた…)。 肩書きがない人でも参加できるみんなのためのみんなの意見交換の場が各地域にうまれるといいなと思います。しくみづくりが必要(作れる地域からとにかく作る)。「成功の中には失敗という(味)も含んでいる」『役割と出番 人は誰でも主役になれる』
	他人事	みんなに役割を	他人事になっている部分が多い	いろいろな人いろいろな役割を持たせると良いのではないかな？
	祭り重視	祭組織の見直し	この町はお祭りがさかんな為、まちづくりが祭りと混同され、なかなか話し合いの場がもてられない。祭中心のため。	区長、町内会長が祭を行う慣習になっている地域が多いので、区長は祭をせず、保存会などが行う。(難しいかな)
	祭り重視	区長を女性に	この町はお祭りがさかんな為、まちづくりが祭りと混同され、なかなか話し合いの場がもてられない。祭中心のため。	区長を女性にする事も考える。
役員依存	全員参加	極く少数者(1人若しくは数人)による地域活動等の取仕切り。	地域住民全員が、主役の立場を自覚のうえ、諸活動等に携わり、リーダーの名譽職化を排除する。	

	家庭重視	共同管理	地域間での交流を積極的に行う人が少なくなり、「自分の家庭」に重きをおく人が増えた。	地域にある施設・設備の共同管理をするシステムをつくり、地域交流を促すとともに、「まち」を形成しているものにふれることで、まちへの愛着心を育てる。
	リーダー不足	牽引組織	率先して「理想の姿」にしようとする人があられない。	1人ではなく、5、6人集めて全員で作っていく。その中に市の職員も介入す
	リーダー不足	リーダー育成	地域をまとめる人がいない。骨をおっても得にならない。	地区リーダーの育成
	メリット不足	リーダー育成	地域をまとめる人がいない。骨をおっても得にならない。	地区リーダーの育成
	区長依存	無作為選出	代表になる人がいつも決まっている。区長が代表になる場合が多い。その上、必ず男性が代表になり、女性の参加者も少ない。	事業仕分けをする時、無作為に人を選ぶ方法をするとは良いのでは。老若男女が混ざり合い話し合う場を。その時年寄り若くは若い人の意見を聞く努力をするようにする。
	女性参加が少ない	無作為選出	代表になる人がいつも決まっている。区長が代表になる場合が多い。その上、必ず男性が代表になり、女性の参加者も少ない。	事業仕分けをする時、無作為に人を選ぶ方法をするとは良いのでは。老若男女が混ざり合い話し合う場を。その時年寄り若くは若い人の意見を聞く努力をするようにする。
	目標と課題が不明瞭	地域組織の連携	展望(目指すところ)と課題(今やるべき事)がわからない。行政がどこに向かっていこうとしているのかわからない。明るく元気な街ではつかめない。長はどう思っているのか。市民協働、防災等(はつきり伝え動かす。自然発生的では整わな	課題解決を区長どまりではなく、横串(円形)、より多くの人達、組織を組み込んで解決する方向へもっていく。
	行政依存	地域自治組織	昔からの体質で「市に言えば何でもやってもらえる」という考えが根底にあるため。	「自分たちの地域は自分たちで良くする」という考えに基づいた組織(協議会等)を立ち上げ、自分たちで出来ない部分を行政が行うという内容の仕分けが必要かと思えます。
	地区ごとの対応が必要	地域自治組織	・社会環境の変化 ・地域ごとの人口流出入の差 ・価値観、ライフスタイルの変化 →地区ごとの状況・課題が多様で、一律の施策では対応しきれないのではないか。	地区自ら対処してあたれるようにする。 ・地区の課題に則した国などのモデル事業に応募する。 ・地区ごとに「地域自治組織」を立ち上げ、裁量と財源を移譲する。
取組開始	関心がない	防災	「終の住処」を設け乍ら、地域に対する関心や思考の欠如(稀薄)に起因する。	予想される「東海・東南海・南海地震」に係る、防災諸活動等を通じて、地域住民相互の「絆」を形成する。
	参加しにくい	防災	地域活動の魅力不足及び参加しにくさ	防災等、自分にふりかかってくることに対する活動を広げ、参加への抵抗感を減らす。
	時間がない 他の娯楽が多い	防災	・自分の仕事・生活が忙しく、時間の余裕、そして心の余裕がないため ・地域のお祭り・盆踊り等参加しなくても、昔とちがい他に自分で楽しめる娯楽がある(子供会がなくなっているのもこの理	・本当にみんなが気になっていることは防災だと思います。区ごとから組ごと、より現実味のある小さな単位で顔合わせができれば…。
課題に取組む実践	地区範囲が不適正	地域包括ケア	地区という規模が活動母体としてミスマッチなのではないか。(人口とその分布、物理的距離、公共施設の数など)	地区同士の交流を始める。(地域包括ケアシステムも視野に)
	時間がない 他の娯楽が多い	スクールガード	・自分の仕事・生活が忙しく、時間の余裕、そして心の余裕がないため ・地域のお祭り・盆踊り等参加しなくても、昔とちがい他に自分で楽しめる娯楽がある(子供会がなくなっているのもこの理	・自分の子供・孫のためならと思う人も多いと思います。登下校の見守りから、少しずつ活動の幅を広げていっては…。
	時間がない 他の娯楽が多い	雑草、花いっぱい	・自分の仕事・生活が忙しく、時間の余裕、そして心の余裕がないため ・地域のお祭り・盆踊り等参加しなくても、昔とちがい他に自分で楽しめる娯楽がある(子供会がなくなっているのもこの理	・道の雑草が気になっている人は多いと思います。花いっぱいになったらみんなの気持ちが変わるのではないのでしょうか。まずは、学校まわりからだんだんと広げていっては…。
	空き家・高齢化	行政介入	空き家、高齢者の住まい等で町の活気が失われている。	ある程度行政が介入して対処する必要あり。
	時間がない 他の娯楽が多い	共通課題解決のための組織化	・自分の仕事・生活が忙しく、時間の余裕、そして心の余裕がないため ・地域のお祭り・盆踊り等参加しなくても、昔とちがい他に自分で楽しめる娯楽がある(子供会がなくなっているのもこの理	・本当に困っていることに対し、何とかしたいという気持ちを持つ仲間が集まってやり始める。それを見て、新たな仲間をふやし組織化していく。
行政	目標と課題が不明瞭	市民への説明・説得	展望(目指すところ)と課題(今やるべき事)がわからない。行政がどこに向かっていこうとしているのかわからない。明るく元気な街ではつかめない。長はどう思っているのか。市民協働、防災等(はつきり伝え動かす。自然発生的では整わな	展望、課題について、今までも広報等で載せられていたと思うが理解は難しい。当然、市民に理解と協力の部分と行政のスキルをもってやることはあるのだから、市民がその気になるまで説明、説得、(伝え方)が必要。市民が自発的に(主体性を持って)動いていくことが一番の行財政改革だと思います(次世代へ持続可能な社会構築)。市民が何かに取組む時、行政の人もちろん、住民の一人として汗を流す。(ハードル高いが、結果喜びを感じ、ステップアップになっている。各講座で語られた。)
	住民情報不足	役所との連携	地域にどんな人が住んでいるのかがどんどんわからなくなってきた	役所と連携して情報を共有できるといいのではないかな?
	市職員と市民の交流不足	市職員と市民の交流イベント	市職員と市民の交流する場がない。	交流する場を作る。(市民と協力して) 例 ・競技会(ソフトボール大会、つり大会など) ・飲み会(花見、バーベキューなど) ・相談会を開催したり
	つながりが希薄 関心が低い	市職員同士のつながり	・地域での人間関係の希薄化 ・まちづくりに対する関心の低さ	・まずは職員から、同じ地区の職員のつながりが普段からあるとよいと思います。同じ地区の職員同士で、地区について知る勉強会やまちづくりについて話す機会をつくるようにする。高浜の特派員的な職員になればよい。
地区範囲	地区が多い	地区範囲の拡大	現在、想定している地区割りでは、数が多すぎるし、また範囲が狭すぎて、実行する人の負担が多いと思う。	小学校区や中学校区で地区割りにして、実行できる人の選定幅を広げておく。
	地区範囲が不適正	地区範囲の拡大	地区という規模が活動母体としてミスマッチなのではないか。(人口とその分布、物理的距離、公共施設の数など)	地区や分野によっては、小・中学校区での活動を検討する。
教育	他人依存	大人が見本を	どの地区もが、誰もが、とは言わないが、自分の住んでいる地区や近所のことを他人(区長や字役員、市、市職員など)任せにしようとする意識が根底にあると思う。また、市外からの流入人口、単身者・転勤族が増えており、地域への帰属意識のようなものが低い人たちが増えている。	「面倒くさい」、「市がやればよい」という意識はなかなか拭えないと思うが、大人が手本を見せないと子どもたち次の世代も同じ意識を持ったまま大人になってしまうので、面倒くさがらずに(面倒くさいと思っても顔や口には出さずに)、少しずつでも地域の活動を行うよう一人一人が心がける。
	関心がない	教育	「終の住処」を設け乍ら、地域に対する関心や思考の欠如(稀薄)に起因する。	将来のユートピア(理想郷)を築く一助として、義務教育(小・中学校)の段階で、地域を仁心する想いを育む…教育の一環…必要が在る。
	他人依存	教育	どの地区もが、誰もが、とは言わないが、自分の住んでいる地区や近所のことを他人(区長や字役員、市、市職員など)任せにしようとする意識が根底にあると思う。また、市外からの流入人口、単身者・転勤族が増えており、地域への帰属意識のようなものが低い人たちが増えている。	子どもたちから大人たちに「自分たちのことは、できるだけ自分たちでやるんだよ」と働きかけられるように、保育園や小学校で子どもたちを育て、教育していく。
メリット	町内加入率が低い	メリット	町内会への加入率が低い	加入することでうまれるメリットを伝える
	時間がない	メリット	仕事や家庭、趣味の活動などに費やす時間が多く、地域活動に参加する時間を作るのが難しいため。(優先順位が	地域活動に参加するメリットについて現代の考え方に合う説明ができるとうい。(参加するメリットがあるのかは、わからないが。)
その他	財政難	資金確保	財政難?	地区のまちづくりを進めるには、ある程度予算が必要だと思います。(まちの美化、公園清掃、防犯事業等に対する具体的な金額の提示) また、仮に各地区協議会を立ち上げるにしても、当初はかなりの時間(集まり会)が必要で、すべて無料奉仕は難しいのではと思います。
	専門家不足	専門家を入れる	審議会などを開く時、専門家がない。	会合を開く時は身内だけで話し合うのではなく、専門家や第三者を入れると良いのではないかな。
	魅力不足	付加価値	やる気がないか魅力がない	付加価値をつける
	共同体意識が希薄	コミュニティ活動	昔の共同体意識がうすれてきている。	コミュニティ活動を復活させる。